



彩の山

埼玉支部報 第 41 号

《題字 松本敏夫》

【目次】

《組織の魅力とは》	大山光一	1	ニホンジカ食害の実態調査	その 1	
山行報告				鴨志田隼司	17
埼玉 50 山「秩父御嶽山」	町田美春	2	第 5 期埼玉やま塾終了報告	長谷部康子	22
忘年山行「陣見山」	高倉洋一	6	古道 P J ・講演会報告	松本敏夫	24
新年・ウエルカム山行「景信山」	高倉洋一	8	スキー同好会報告	古川史典	26
埼玉 50 山「武川岳」	小玉和孝	9	山の本棚シリーズ⑨	小原茂延	27
四季の山・冬山			ペンリレー 第 5 回		
八ヶ岳・北横岳	行方真由美	13	「雑感」	清登緑郎	29
平日山行倶楽部	高橋 努	14	新入会員自己紹介	林 信行	30
北八ヶ岳・縞枯山	恵 秀彦	14	事務局より	林 信行	32
足和田山・富士山展望	吉田湖恵	15	講演会のお知らせ	林 信行	33
風のみちハイキングと忘年会	野口勝志	16	編集後記	橋本久子	33
阿須丘陵ハイキング	吉田寛治	16			

《 組織の魅力とは 》

支部長 大山光一

春の訪れを告げる憧憬の山々の便りに、新たな高みにチャレンジする会員諸氏の登山活動に期待をしたい。現在、150名余りの会員を有し、山行委員会、自然保護委員会、社会貢献委員会、安全登山委員会、平日山行倶楽部、等々、多岐に渡って登山活動を実施しています。

昨年末の忘年山行には、年末の多忙にも関わらず80代の会員も駆けつけて35名の参加者が集い、新旧会員が交流する貴重な山歩きを堪能しました。

一方、組織運営における最大の課題は、会員の高齢化に歯止めがかからないこと。自然の摂理に従えば、一年後には一歳の加齢になる。その対策のひとつとして、新たな会員の獲得、未組織登山者に向けた登山の基礎を学ぶ第6期埼玉やま塾が始動しました。

コロナ禍で2020年は休止しましたが、やま塾卒業生が埼玉支部の一大勢力になっています。各委員会の活動や企画の中心的存在になっていることは将来の貴重な人材確保に繋がると確信しています。

ただ組織運営に関わる立場からは、ひとつの懸念があります。それはやま塾で学んだ基礎的な登山知識や実技登山だけでは、安全な登山を励行するには不十分だということです。勿論、登山経験を持ちながら、基礎知識を学んだ会員が組織を支える即戦力になっていることはありがたいです。

一方、登山技術のステップアップを図りたいと願う会員に対する要求に応える講座とか機会が支部内には構築されていない現状を危惧しています。早急に指導者やリーダーを育成する必要があります。具体的には、登山経験が浅い会員を対象にした登山講座の開設です。

本来、組織に与する良さは、同じ思考を有する山仲間と可能性を求めて、新たなチャレンジができる環境があることです。従って、各委員会が会員の要求に応えられるような登山計画なり企画を提示しないと関心を示さない。組織の魅力は、そこに関わる人材の力量にかかっているのです。

登山の基本は、「自己責任」です。自然を相手の登山では、道迷い、体調不良、転落、悪天候、

天災、等の想定外の状況が隣り合わせです。

遭難事故の撲滅を図るには、安全登山の構築、すなわち自立した登山者の育成に取り組む必要があります。浅い知識と未熟な登山技術で登れる山もあるけれど、それはただ幸運に恵まれただけ。大事なことは、自分を知る、自分の力量を知ることです。そのことを教える、伝え続ける。

知識を学び新たな登山技術を実践する。登山の楽しみや喜びは、他人と競争したり、優劣を決めるのではなく、協力して掲げた目標や目的を達成する過程にあると思います。その延長線上に「仲間の安全・家族の安心」があります。組織を担う人材を繋げていくことが今、必要です。

これは日本山岳会に限らず、多くの社会人山岳会が直面している課題であり、会員減少、あるいは若年層の入会が少ないことが、組織運営の存続にかかわる大きな問題になると認識しています。

例えば、山行委員会の登山計画は、会員のレベルに合わせた、あるいは選択できる企画を立案することが望ましい。企画力が乏しいと山歩きの範囲が限定され、個人が望むような登山技術の習得が難しい。勿論、教える側の最新の知識と学ぶ側の登山技術が伴わない場合もあります。

それは登山経験が浅い、あるいは少ない場合、新たな企画の立案よりも、前年通りの計画、変化を求めない安易な選択となっている場合が見受けられます。それは企画者も参加者もお互いの成長が少ないこととなります。リスクが伴っても変化を求める姿勢が成長の糧になるのに、会員の要求に応えられる人材が不足している。これが大きな要因です。

本来、山岳会に入会するのは、仲間を求め、自らの目指す登山形態を実行するためである。先人からの教えを継承してきた登山への取り組みが変化したのは、1970年代の前半、日本にガイド登山が誕生した頃からだろうか。ツアー登山、公募隊、等、国内登山に限らず海外登山まで連れて行ってもらい登山が定着しました。先輩から学び後輩に引き継がれた古き良き伝統は失われた感が否めません。

かつて、支部の中樞を担っていた会員の高齢化で肅々と繋いできた登山に関わる知識や技術の伝統が継承される環境が難しくなっています。顕著なのが、登山の本流を求める登山者の減少です。日本の山の魅力は四季折々の厳しい自然環境を体験できるのに、過酷な自然環境にチャレンジする会員が少ない、不在、だとしたらとても残念です。

【山行報告】 11 月度 埼玉 50 山「秩父御嶽山」

山行委員 町田美春

*日程：2023 年 11 月 11 日（土） 晴れ

*場所：秩父御嶽山（1,080m）

*参加者：CL 町田、SL 小玉、稲越、古川、松尾、宮崎、吉田（由）、塚越、
平本（真）、平本（美）、高倉、長谷部、中根 13 名

*集合：秩父鉄道「三峰口駅」

*行程：9:05 三峰口駅→9:20 贅川宿→11:40 タツミチ→12:00 秩父御嶽山 12:30→
13:50 杉ノ峠→14:48 登山口→15:07 強石バス停→15:40 三峰口駅

*歩行時間：約 6 時間 30 分（休憩込み）

*装備：日帰り登山装備 雨具、昼食、行動食、非常食、飲料水、救急用品、防寒着等

***行程概要：**

前日は冷たい雨降りでしたが、当日は秋晴れとなり参加者の方々は晴れやかな顔で秩父鉄道三峰口駅に集合しました。心配していた気温もそれ程低くはならず、山行には丁度良い気温でした。

今回の山行は奥秩父ということもあり熊の出没を懸念していましたが、参加者の方々が熊よけグッズを色々準備してくださり心強かったです。集合時に熊よけグッズのお披露目があり皆、興味津々に手に取っていました。

三峰口駅をスタートし費川宿では、案山子のお出迎えがありました。おじさんやおばさん、子ども達まで沢山の案山子に迎えられ、そして登山口では見送りをして頂きました。

稜線に出るまではずっと杉林の中を歩きましたが、手入れがされている林なので暗さは感じませんでしたが、如何にも熊が出てきそうな雰囲気はありました。熊よけグッズの火薬銃や電子ホイッスルの活躍で安心して歩くことができました。イノシシを見かけた時にもすかさず火薬銃を鳴らしてくださいました。



一度稜線に出ると黄色く色付いた葉が太陽の光に当たりとても綺麗で私たちの目を楽しませてくれました。そこから山頂まではかなりの急登でしたが、山頂からの眺望は素晴らしく、両神山、天理岳、遠くには雪のない浅間山も見え疲れが吹き飛びました。山頂にはお社と鐘があり、到着の鐘を鳴らしました。先着の方に写真撮影を依頼すると、何故か私達の写真に混じっていたというハプニングがありました。

山頂から少し下った所で休憩をとりましたが、日陰のため一気に寒さが押し寄せ、防寒着や手袋を装着し温かい飲み物で体を温めました。



その後、強石方面に下山を開始すると落ち葉で登山道が埋まり道がわかりづらい箇所がありましたが、事前に下見をしていたので道迷いせずに済みました。

痩せ尾根と急峻な岩場・鎖場は、足の踏み場が確認できないほど落ち葉が溜まっており、ストックで掻き分けながら一步一步確実に足の踏み場を確認しながら進みました。

所々に紅葉もみられ、遠くからは SL パレオエクスプレスの汽笛が聞こえ、里山の楽しさを感じた瞬間でもありました。強石の登山口に到着すると、サルの群れがいましたが、火薬銃と電子ホイッスルの音響で飛び散っていきました。熊よけグッズが大活躍の山行でした。



バス停迄は 20 分ほどあり急ぎ足で向かいましたが、残念ながらバスは行ってしまった後でした。対岸に渡り晩秋の秩父路を楽しみながら三峰口駅迄歩きました。

※注記：秩父御嶽山(チチブオンタケサン)は、秩父御岳山とも表記されます。又、全国の「御岳山」の発音は「オンタケサン」「ミタケサン」「ミタケヤマ」等、色々。(編集 記)

* 参加者の感想 *

【古川史典】今回は、秩父独特の切り立った山、尾根も急峻で痩せていて登り下りに緊張を強いられる時間の長い山であった。季節は冬に向かい冷たい風が吹く中、少し山中は寂しさを感じましたが、それも自然の移り変わりと思えば又楽しからずやの登山でした。担当の町田さん、小玉さん、下見も含め 2 回の「秩父御岳山」ありがとうございます。

【高倉洋一】支部山行は 8 月下旬の針ノ木岳山行以来の参加となりました。天気も悪くなく、皆とお喋りしながら、猪・猿に遭遇しながら奥秩父の里山歩きを楽しむことが出来ました。夏の北アルプスも好きですが、身近な奥秩父の山々も楽しめますね。CL の町田さん、SL の小玉さん、ありがとうございました！

【松尾 渡】秩父御嶽山は公共機関を利用して家から集合場所まで行くのには 3 時間強かかる。ローカルの山に行く時は、(1)山行を目指す山、(2)利用する地元の鉄道に関心が出てくる。今回の御岳山は埼玉県に二つあり、今回の奥秩父の御嶽山はもう一つの御岳山(神川町にある「みたけやま」)より高度が 700m 以上高く、標高差も大きい。当日は好天に恵まれ、枯葉舞う晩秋の自然や景色を十二分に堪能できた。また、熊谷から三峰口まで走る秩父線は初めての体験で、学校に通う高校生や地元の年配の人の会話を聞いて「遠くへ行きたい」という番組を思い出す。山々が続き、流れる川も清澄で谷が深い。平凡であるが、「そんなに時間に急がなくてもいいのですよ」と教えられている気がする。晩秋の御嶽山は全山紅葉にはまだ早いですが、心地よい汗と軽快な疲れを感じさせ「自然の良さ」を納得できた一日で、また新たな山登りを目指したいと意欲を湧かせる。最後に、山行を企画された幹事の方に感謝するとともに、全員無事安全に下山できたことを嬉しく思います。

【長谷部康子】夏に個人で計画し普寛上人についても調べたりしていましたが、暑さで取りやめた山でした。今回登ることができ嬉しかったです。熊との遭遇を心配していましたが皆さんが対策をしっかりしてくださっていたので安心でした。紅葉もきれいで大満足の山行でした。

【宮崎則子】埼玉県に御岳山があることを初めて知りました。アクセスも良く登山道や標識も整備されていて気持ちの良い山行でした。思っていたより長い最後の登坂や落ち葉で足元が不安な下り坂など結構スリルも味わえ、低山でも登った満足感がありました。有難うございました。

【吉田由美】11月になってもなかなか気温が下がらない日が続きましたが、久しぶりに冷々とする空気の中を気持ち良く歩けました。山頂からは、両神山や二子山も見え陽差しが当たった紅葉はキラキラしてとてもステキな秩父御岳山でした。

【小玉和孝】今回の山行は参加人数も多いためリーダーとも相談して急遽下見を実施しました。晩秋で落ち葉が登山道を覆っており、道迷い起こし易い箇所が2カ所見つかりました。また、下山時の危険な場所もチェックすることが出来ました。当日は、天気も良くスムーズな山行を実施することが出来ました。これからも皆さんと楽しく安全な山行を実施していきたいと思います。

【稲越洋一】秩父御嶽山は、標高 1000m 前後ながら、そこそこの標高差に加え、急登や岩場もあり、有名な青梅・御岳山とは比較にならない山らしい山です。案内のとおり、山頂には木曾の御嶽山とも繋がりがある祠があり、信仰の山でもある事を実感。晩秋の紅葉も見ごろで眺望もあり、もっと人気が出て良いのではないのでしょうか。ただ落ち葉の時期だったので踏み跡は不明瞭で道迷いに注意が必要で、又、滑りやすく侮れない山ですね。

【平本真二郎】三峰口駅をスタートし登山道に入る前には多くの案山子が置かれ、住民より案山子の方が多いのではと感じる程でした。しばらく緩やかな樹林帯が続いていましたが、頂上前では約二百メートルの急登が続き秩父御嶽山の洗礼を受け山頂に到着となりました。頂上からは両神山、浅間山などが見えている中で、初めて天理岳も確認することができ、気持ちもいい山行となりました。

【町田美春】お天気も良く贄川宿の案山子さん達に迎えられ、晩秋の秩父御嶽山を気持ちよく歩けました。紅葉は、ほぼ終わりのようでしたがわずかに残っている色とりどりの葉に陽が当たり、とても綺麗で癒されました。急登、痩せ尾根、岩場等バリエーションに富み低山ながらも歩きごたえがありました。落ち葉で滑りやすく道迷いしやすい状況でしたが、下見をしていたのでトラブルなく下山できホッとしています。

【中根洋子】紅葉というより茶色っぽい葉が多いのが残念でしたが、その分たまに見られる真っ赤や真っ黄色の葉が青空に映えて大変印象的でした。体が慣れておらず不安がありましたが、思ったほど寒くもなくお天気に恵まれたのもよかったです。急登・急坂は足元が覚束なく結構大変でしたが、皆様のサポート・お気遣いのおかげで終わってみれば全身心地よく疲れた山行でした。お世話になりました。またよろしく願いいたします。

【平本美恵子】埼玉 50 座の最初の 1 座目が秩父御嶽山となりました。爽やかなお天気の中、この急登はアルプス並みの登りだと思いながら、汗だくになりながら山頂にたどり着きました。立派な社があり周りの山々が見渡せる気持ちの良い山頂でした。頂上直下で昼食を食べましたが、三峰口駅の名物「草もち」を食べているはずだったのに、まさかの臨時休業で Get できず残念でした。秋の落ち葉を踏みしめながら、急登と岩、鎖場があつたりと楽しい山行でした。

【塚越和子】秩父御岳山、低いながらもしっかりと続く急登、また下りは、下りで細く滑りやすい登山道で、なかなか中身の濃い侮れない低山でした。でも皆で歩くと、不思議と楽しく歩いてしまいました。紅葉してる葉も、美しく充実した 1 日を、過ごせました。

【山行報告】忘年山行「陣見山」

山行委員 高倉洋一

- *日程：2023 年 12 月 16 日（土） 晴れ
- *場所：陣見山（531m 秩父郡長瀨町）
- *参加者：CL 林、SL 轟、オブザーバー高橋、車輛サポート宮崎、スタッフ東・高倉、大山、平川、若林、右川、清登、稲越、渡邊、野口、朝井、鴨志田、小島、橋本、山崎、大野、古川、米山、吉田、宮崎、中村、浅田、横山、金丸、足立原、大室、芦沢、奥田、吉田（由）、吉田（湖）、中根 35 名
- *集合：秩父鉄道 波久礼駅
- *行程：10:00 三峰口駅 10:15→11:40 大槻峠→13:12 陣見山 13:40→15:00 下山口
（その後、林道を歩いて樋口駅、解散。26 名が懇親会会場へ移動。）
- *歩行時間：約 4 時間 40 分（休憩込み）
- *装備：日帰り登山装備 雨具、昼食、行動食、非常食、飲料水、救急用品、防寒着等

*行程概要：

【忘年山行・懇親会に参加して】

雨は朝 8 時頃には止み、日差しもあってさほど寒くは感じられませんでした。電車が到着する度、秩父鉄道・波久礼駅には多くのハイカーが降り立って行きます。我々の集合時間は 10 時としていましたが、9 時過ぎから皆さん到着し始め、集合時間前には地元の宮崎さんから、この「波久礼」（はぐれ）の語源は、岩が破壊して崩れる「破崩」であったことなど、ご当地の歴史や地理についてお話いただきました。その後、全員点呼と大山支部長のご挨拶、集合写真を撮ってスタート。



彩甲斐街道（さいかいのみち、国道 140 号）に沿って八幡神社に立ち寄ってから、沢沿いの緩やかな斜面を濡れた落ち葉を踏みしめ進みます。



スタートして一時間半ほどで尾根に取り付き、11:45 頃大槻峠で小休憩、正午にはピーク 368. 4m の三角点を経て、11:20 分頃から 11:40 までピーク 424m で昼食にしました。

その後は急斜面を登り、13:20 陣見山に到着。山頂は眺望なく、テレビ中継局建屋と鉄塔があるのみでしたが、それでも私には冬のそこはかかない侘び寂が感じられました。



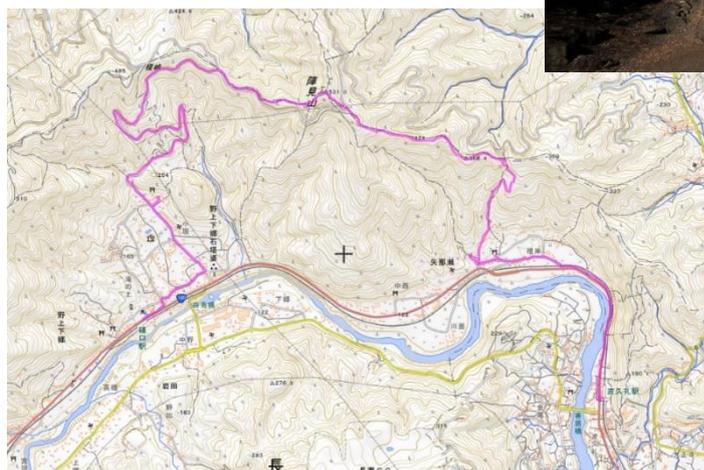
山頂を極めた後はいくつかの小ピークを上り下りし、15:00頃には麓の人家がある下山口に辿り着きました。その後林道を歩いて樋口駅へ向かい、樋口駅前にて解散。懇親会に参加する26名は会場となるお店のバスで長瀬駅近くへと移動しました。



懇親会は最長老の吉田寛治さんの乾杯音頭で始まりました。このように大人数が会する機会も少ないため、改めて一人ひとり自己紹介した後、皆さん和やかに歓談され、楽しいひと時を過ごしました。

埼玉支部に入会して一年経ったばかりの私にとっては、ベテランの先輩方から山の話、ご自身がこれまでどう山と向き合ってきたかを聴くことができた大変貴重な機会となりました。

陣見山 →
(山頂は直接には見えません)



行程(出典：国土地理院 Web 地図)

【山行報告】新年・ウエルカム山行と餅つき「景信山」

山行委員 高倉洋一

- *日程：2024年1月13日（土） 晴れ
- *場所：景信山（727m 東京都八王子市・神奈川県相模原市）
- *参加者：CL 轟、SL 高倉、齋藤、市村、芦沢、国崎、水野、天池、林、平川、平本（真）、平本（美）、加藤、稲越、坂倉、町田、宮崎（則）、若林、足立原、中村、東、中根、小玉、立原、鴨志田、古川 計26名、うち新規入会者6名
- *集合：JR 高尾駅北口
- *行程：高尾駅北口バス停 8:32 → 8:53 小仏バス停、9:21 スタート → 10:36 景信山、景信茶屋青木（昼食・餅つき）13:08 → 13:48 ヤゴ沢作業路登山口 → 14:08 小仏バス停 14:20 → 14:41 高尾駅
- *歩行時間：約5時間（昼食・餅つきの時間含む）
- *装備：日帰り登山装備 雨具、行動食、非常食、飲料水、救急用品、防寒着等

*行程概要：

【新年・ウエルカム山行に参加して】

忘年山行と同じく、新年山行には多くのベテラン会員が参加し、新規入会された方々を歓迎するとともに、皆でお餅つきを楽しむことができました。

景信山山頂に着いて、すぐ餅つきの準備にとりかかりましたが、係が用意したきな粉・海苔としょう油・餡などのほか、皆さんからワインや大根おろし等々も差し入れ頂きました。そして、青木さんの茶屋で蒸してもらった糯米を、“餅つきマイスター”たちが力強くついてゆきます。たまに杵が臼とぶつかったりするものも、ご愛敬。当日は夕方から降雪の予報も出ていましたが、昼間は好天に恵まれ、皆で賑やかに熱々のお餅を楽しみ、ふた臼分（4升・約6Kg）のお餅は持ち帰り分も作って、きれいになりました。



青木さんの茶屋は景信山での営業は1月28日で終え、3月に隣の小仏城山へ移って営業されると聞きました。最後に景信山で知られた餅つき山行を新たな仲間とでき、またこれから一緒に多くの山行を楽しみたいと思います。（SL 高倉）



参加者(新入会員)の感想文

芦沢絵美子：先日は皆様の貴重なお時間をウエルカム山行に費やして頂きまして誠にありがとうございました。人生初の餅つきを体験致しまして、貴重な経験となり勉強になりました。今迄ストレス解消と非日常を求めての山行でしたが、最近は更なるステップアップを求めて（若くはないのですが）登攀の方も少しずつ勉強させて頂ければと思いますので、宜しくお願い致します。

齋藤哲也：自分に求める要求水準が高く、目標設定型の山行ばかり繰り返している岳人は、目標達成後に喪失感に襲われることがあります。しかし、「自分の山」を持っている岳人はそうはなりません。「自分の山」に戻り、その空気を存分に身に纏えば活力が瞬く間に充填されるからです。好天の中、山頂の茶屋にて餅つきで賑わう多くの登山客を見て、きっと景信山を「自分の山」として大事にしている岳人もいるのではないかと感じました。疲れはまったくありません。記憶に残るいい山だと思います。埼玉支部の皆さま、新歓山行ありがとうございました。厚く御礼申し上げます。

水野千秋：入会し初めての参加。少し緊張して集合場所の高尾山駅に向かいました。やま塾の同期生やお世話になったスタッフの方々の姿を確認し、緊張していた気持ちが少しほぐれました。その後はおしゃべりをしながら歩き、あっという間に頂上の青木茶屋に到着。すぐに餅つき準備。私は何をお手伝いすればよいのかわからず、自分のお皿やお箸を準備し、皆様の餅つきの技を見学。自然に笑顔や応援の掛け声が出て会話も弾みました。私も餅つき体験をさせていただき、餡子やからみ、田楽味噌、きな粉、海苔など係の方や皆様が持ち寄り、用意していただいたものを遠慮なく掛けて、大変おいしくいただきました。つきたてのお餅をいただくなんて、何十年ぶりのことでしょうか。新入会員の私たちを温かく迎えようと準備してくださった係や会員の皆様の気持ちを感じ、感謝いたしました。登山やハイキング、その他諸々を楽しんでいる老若男女？の皆様はとても素敵で、仲間に入れていただいたことを嬉しく思いました。今後日程が許す限り山行に参加し、山登りを楽しみたいと思っています。どうぞよろしく願いいたします。

【山行報告】 2 月度 埼玉 50 山「武川岳」

山行委員 小玉和孝

* 日程：2月4日（日）

* 場所：武川岳（埼玉 50 山 1,052m）

* 参加者：（敬称略）稲越洋一、松尾渡、宮崎則子、町田美春、塚越和子、立原由子
萩原みか、平本美恵子、那須朋美、高倉洋一、SL 朝井紀久子、CL 小玉和孝

* 行程：名郷バス停 9:15→11:30 前武川岳 11:50→12:00 武川岳 12:30→蔦岩山 13:00
→13:30 焼山 14:00→14:35 二子山雄岳 14:50→15:00 二子山雌岳 15:20
→16:35 芦ヶ久保駅 * 16:40 芦ヶ久保駅で解散

* 歩行時間：7 時間 20 分（休憩を含む）歩行距離：10.5 km 累積標高差：約 1,120m

【行程概要】

午前中は、雨又は雪の予報。名郷バス停付近では冷たい雨がぽつぽつ降っており、雨・防寒対策を取っての歩き始めとなりました。

武川岳登山口までは、車道とショートカットの山道を通って約 20 分かかりました。その頃には、雨も止み、気温も上がって来たので衣類の調整をして本格的な登山の開始となりました。

まずは植林された杉の中の山道を軽快に進んで行きます。しばらく進むと突然巨大な露岩群が現れました。「天狗岩」に至る岩稜帯の始まりです。右が「女坂」、左が「男坂」の標示があり、第一のクライマックスである男坂に進んでいきます。三点支持を心掛けて慎重に登って行きます。皆さん岩登りを楽しんでいる様子でした。



急登が続きましたが、やがて前武川岳 (1,003m) に到着しました。付近は今朝降った雪が少し

残っていました。ここで少し休憩して、武川岳に登頂しました。武川岳山頂は閑散としており、埼玉支部の独占状態でした。登頂の記念写真を撮り、昼食後、二子山に向け出発しました。



葛岩山を通過して、焼山に到着しました。途中、登山道が一部崩落したため林道を歩く箇所があり道迷いし易い場所がありましたが、下見していたためスムーズに通過することが出来ました。

焼山では、埼玉を代表する武甲山と両神山をバックに記念撮影を行いました。埼玉支部山行では、絶好の撮影スポットです！！

焼山から二子山までは、急激なアップダウンを繰り返すので慎重に進みました。



二子山からは、「あしがくぼの氷柱」イベントが行われているため浅間神社コースが通行止めになっているので、兵の沢コースを下ります。ロープを使って急なザレ場を下る本日第二のクライマックスです。皆さん、今までの長い行程で疲れているにも関わらず上手に下って行きました。



日没前の 16 時 35 分に参加者全員無事に芦ヶ久保駅に到着しました。



12 月に下見山行を実施しましたが、行程も長く、急なアップダウンもあり支部山行としては大変だと感じておりました。天候にも恵まれ、予定時間通りの山行が出来たことを参加された皆さんに感謝です。

終始会話も弾んで和気あいあいの楽しい山行で良かったです。今後とも埼玉支部の皆さんと楽しんで山に登りたいと思います。



全行程の水平 Map

【参加者の感想】(順不同)

塚越和子：曇り空の中、歩き始めました。急登が続きましたが、皆さんと楽しいお話ししながらだったので、苦になりませんでした。1人で登ってたらきっとこの長い1日の山行は、決して出来なかったと思います。仲間の大切さを、感じました。岩場もあり、帰りの長いロープ場も、あり、変化に富んだ1日でした。皆様、ありがとうございました。

那須朋美：お天気にもめぐまれ、雪も見られて、岩にも登れて、激下りも体験出来てとても充実した山行でした。登山道も明るく長い行程ではありましたが、皆と一緒に楽しく歩けました。なかなか単独では難しい地域なのかなと分かったことも今回の収穫でした。ありがとうございました。

萩原みか：ずっといつかチャレンジしたかったコース。アップダウンが激しく、終始気を抜けない。そして岩あり、ロープありで良いトレーニングになりました。今日は長いロープに体を預けてないでカラダを起こして降りてくるコツを見て学び、やって見て体感できました。稲越さんのご指導に感謝です。深い枯葉の道や滑る泥の所があったり、前夜の雪が一部薄っすらと残っていたり、すぐ目の前に武甲山の削られた台状の所と同じ高さから眺められたり、盛りだくさんな楽しい山行でした。担当者、ご一緒の皆さん、ありがとうございました。

宮崎則子：天気予報には傘や雪だるまマークが並び、登山気分が落ち込むばかり。兎に角、寒さと雨対策をして飯能駅集合しました。休日のバスは混雑が予想されましたが、天気のせいか乗客もまばらでゆったり座れました。今回の山行は女性の参加者が多く、登り始めから賑やかなお喋りが始まり段々傾斜がきつくなってもお喋りや笑い声のパワーは衰えず、時々薄日が差し始めて雨や雪の心配も無く楽しい山行になりました。コースも岩稜、木の根っこ、長いロープ急坂地帯等、次々と変化がありスリルを楽しみ飽きませんでした。怪我もなくほぼコースタイム通りに下山出来たのは、CL 小玉様 SL 朝井様の山行計画が良かったからだと思います。「武川岳」山行計画書に写真とともにコース概要説明や必須装備品の記述で武川岳の様子をイメージできました。有難うございました。

立原由子：以前から行ってみたいと思っていた、武川岳に参加できまして、嬉しく思っています。私の旧姓が武川で、いつか行きたいと思っていたのです。当日天気が悪いかと思われましたが、幸いに時々青空も見られました。飯能駅からバスに乗り予定通りの山行で私にとって膝を痛めて以来の山行で不安もあったのですが、無事下山できました。計画立てていただきまして、感謝しています。お陰様で楽しい山行でした。ありがとうございました。新しいメンバーも参加されていたので、自己紹介する機会があったらよかったですのと思いました。

町田美春：心配されていた雨もあがり、空気は冷たかったですが歩くと少し汗ばむ程で衣服調整をしながら歩きました。この時期は、落葉しているため焼山からの眺望は素晴らしかったです。ロングコースで岩場やロープを使つての長い下り坂はとても楽しかったです。またチャレンジしようと思います。

松尾渡：武川岳は、両神山・武甲山とともに小生にとって埼玉県で未踏の山で長年憧れる山であった。山行委員会企画の希望者募集ですぐ手を挙げ一行に加えてもらった。2 月始めの秩父登山はもっと寒いと勝手に想像していたが、当日は平穏な登山日和で登山口から 30 分も登ると汗が首筋を流れる。今回の武川岳・焼山・二子山縦走は各山とも 1000m 前後でそんなに高くないが、歩行距離 10.5km、累計標高差 1100m、岩登り、ロープを何回も継続的に使って傾斜砂道を降りるバラエティに富んだ登山で、冬季トレーニングとしても最適であった。冬の武川岳は四方に埼玉県の連なる山々を眺望できる一方、木の芽が少しずつ顔を出し始め春の訪れが近いことを登山者に教えてくれる。2 月上旬の登山でありながら 3 月中旬ぐらいの陽気さを感じる心地よい登山であった。末筆ながら、山行を企画された幹事の方に感謝するとともに、全員が無事安全に下山できたことを嬉しく思います。

平本恵美子：秩父のロング縦走。岩場あり、急下り、急登り、ロープ無しでは降りられそうもない登山道。武甲山を全く違う角度から見られたりと変化があつてとても面白いコースでした。冬の落ち葉をザクザクとしながら歩くのも楽しいですが、若葉の頃にもう 1 度チャレンジしたいなと思いました。

朝井紀久子(SL)：埼玉 50 山ということで、小玉さんが選んで下さった武川岳。2021 年に支部山行で参加した時は、どしゃぶりの中で、風景の記憶がありませんでした。今回参加して、武甲山や両神山や、大持・子持山、棒ノ折山など奥秩父の山々と、秩父の街の広がりが見えて、どのような山だったのかが、また良く分かりました。参加された皆さんとの会話も楽しく、小玉さんと皆さんに感謝です。

稲越洋一：名郷を起点とした周回ルートはいくつもありますが、2019 年の集中豪雨により、復路のメインとなる「妻坂峠～名郷」が未だに通行止めとなっています。周回ルートは季節を通していずれも興味深いのですが、前記の理由でしばらく足が遠のいていましたので、久しぶりの「天狗岩～武川岳」でした。二子山への縦走も、初めての方が多かったようで、里山とは言え、侮れないロープの急坂のアップダウンが続く縦走路は良い経験になったかと思います。

【山行報告】四季の山 冬山「縞枯山と北横岳」

山行委員 行方真由美

*日程:2024年2月24~25日(土)

*場所:長野県 縞枯山(2,403m) 北横岳(2,472m)

*参加者:(敬称略) 那須朋美、宮崎則子、行方 真由美、(CL) 飯塚雅信、(SL) 轟 涼

*行程:2/24: 11:00 北八ヶ岳ロープウェイ山麓駅 — 12:00 ロープウェイ山頂駅、昼食

12:30 山頂駅発 — 13:30 縞枯山 — 14:37 茶臼山 — 15:20 大石峠

2/25: 7:00 ヒュッテ発 — 7:30 大石峠 — 9:30 山頂駅 — 坪庭 — 10:50 北横岳ヒュッテ

— 北横岳(南峰)11:30 北横岳(北峰) — 11:35 北横岳ヒュッテ — 12:20 山頂駅

*行程概要:

2/24 晴れ 2/25 雪 歩行距離 13.2 キロ 高低差 770 メートル

三連休の中日、貴重な晴れの日で北八ヶ岳ロープウェイ駐車場は朝から満車で大賑わいだった。車組と電車組は山麓駅で合流、ロープウェイ待ちの行列に20分並ぶ。山頂駅に着くと下界の天気とは違い雲を抜けて青空が眩しい。早速、昼食をとる。

その後、つぼ足で縞枯山へ向かう。縞枯山荘を過ぎ、雨池峠から縞枯山へは樹林帯を歩く。途中で傾斜がきつくなりアイゼンを装着する。縞枯山に到着すると樹林帯を抜けて視界が広がる。左には浅間山、右には北アルプス、八ヶ岳など青空に冠雪が映えてとても美しく見えた。

茶臼山を過ぎ、展望台で360度のパノラマの景色を楽しみ、麦草ヒュッテへ下山する。麦草ヒュッテの部

屋にはコタツがあり、食事は美味しく、ゆったりとした時間が過ごせた。

翌日は小雪の中の山行、前日とは変わって貸し切りのひっそり

とした樹林帯を歩く。

山頂駅にてアイゼンを装着、昨日登った縞枯山が途中で見渡せた。北横岳ヒュッテを過ぎ、北横岳(南陵・北陵)へ到着、雪で視界が悪いが、風は強くない。写真撮影をして下山した。



【参加者の感想】

宮崎則子：2/24（土）北八ヶ岳ロープウェイ山頂は真っ青な空、真っ白な雪を被った樹木、大勢の人々で賑わっていました。慣れないアイゼン装着に手間取り、なんとか縞枯山山頂に到着。360度の展望に恵まれ最高の達成感を味わいました。その後サクサクと下山、麦草ヒュッテ泊。2/25（日）朝から細かい降雪でしたが、歩行に気になる程でもなく、樹林帯の中の緩やかな山道は私達5人一行だけでした。降雪の影響か、ロープウェイ山頂駅は人も少なくヒッソリ。昨日の賑わいが信じられない程でした。雪山初心者ですが、皆さんに助けてもらいながら楽しい山行が出来ました。ありがとうございました。



那須朋美：1日目のロープウェイ山頂駅に降りた時の景色と天気のスーパースキにとても感動しました。宿の暖かさや食事とても良かったです。2日目は小雪降る中での山行でしたが、とても静かになかなか味わったことのない山の中を感じられた時間でした。雪山初級でしたが、2日間の行程は充実していてハードな登りも下りもあり、心地よい疲れと達成感がありました。皆さんお疲れさまでした。

行方真由美：2日間で雪景色の中、晴天の八ヶ岳ブルーと冬らしい降雪の天気の両方を体験出来て有意義な山行となりました。雨氷や霧氷が日に照らされてキラキラとしてみえたのがとても印象でした。アイゼンの装着、装着しての歩行についてもアドバイスを頂いてとても貴重な経験ができた2日間となりました。ありがとうございました。

同好会 平日山行倶楽部 10月～1月 報告
北八ヶ岳／足和田山／風のみち／阿須丘陵
評議員 高橋 努

10月 北八ヶ岳・高見石、縞枯山・逍遙山行

恵(イサ) 秀彦 記

森と苔の記憶…久方ぶりに、疎遠になっていた会山行のお仲間に急遽、加えて頂く事となった。

私が初めて訪れた「きたやつ」は、56年前の秋に遡る。苔に覆われた岩と樹林の中の登山道。早朝、天幕に陰を落とすリスの群れがひととき記憶に刻まれている。往時に比べ、道路も整備され、周辺までのアプローチこそ随分と便利になったが、歳月を経ても豊かに敷き詰められた苔群と原生林は昔のままで、なぜか、ほっとした気持ちになった。

緑の回廊を辿る…麦草ヒュッテを拠点に2日間にわたり巡った高見石、白駒池、茶白山、縞枯山、雨池周辺は林野庁が管理する「緑の回廊八ヶ岳」の一部だそうで、高山植物群、原生林は自然休養林の対象として大切に保護、管理されている。そのような環境保全に関わる方々の地道な努力の足跡が、変わらぬ豊かな森の姿そのものであり、例えば、景観を損なわないよう整備された遊歩道（木道）などがその成果のひとつなのだろう。

高見石、揚げパン、縞枯現象、そして苔の森に守られた池…コロナ禍に病を得、数度にも渡る手術などで入・退院を繰り返した。その後、変わらぬ自然と裏腹に衰えた身体を取り戻すリハビリ登

山を月に1～2回程、続けてきた。記憶では穏やかな「きたやつ」だったが、所々、あれた箇所もあり、復帰の身には少々、シンドかった。それでも印象的だった事柄を幾つか。まずは、高見石小屋名物5種類の「揚げパン」特に”揚げたて”がタマラナイ。一汗掻いた後のエネルギー補給におすすめ。その勢いを借りて登った高見石からの秋色に彩られた白駒池も見事。縞枯山への樹林帯に見られた縞枯れ現象は、100年単位での世代交代、森林に見られる天然更新の営みだそう。神のような存在が無造作に造形したオブジェともいえる。不思議の世界に迷い込んだ思いがした。



白駒池の見事な紅葉



石ころ道を下り、雨池へ。岩々に囲まれた池には澄み渡った秋空から巨大な白雲が覆い被さるように眺められた。平日山行倶楽部のリーダーの方々には、以前、秋田駒の山行でお世話になり、様々な場面で心配りを感じる事が多かった。今回もさりげなく、フォローしていただいていたがたかった。静謐な秋の気配と樹林を揺るがす風の音。時々、鋭く響く鹿の声に導かれるように麦草峠を目指して歩いた。

(参加者：吉田寛治、野口、清登、恵、小島、東、浅田、吉田湖恵、萩原、高橋)

←縞枯山 山頂 (写真中央：筆者)

11月 足和田山・富士山展望山行

吉田 湖恵(コト) 記

今年、平日山行倶楽部に入会させていただきました(今回で3回目の参加です)。

この度は冠雪の富士山を間近で見たくて参加いたしました。山梨百名山の足和田山は、富士山の展望がよいうえに富士山を最短距離から望むことができる山のひとつ、ということで期待が膨らみました。

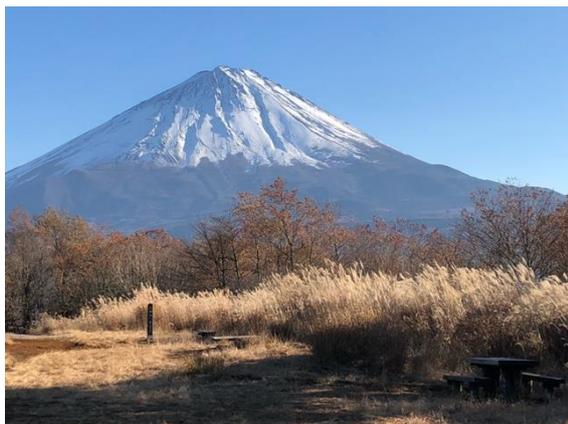
集合は河口湖駅でしたが、まあ、なんと多くの人で混雑していることでしょう。駅とその周辺にいる外国人観光客の多さに驚きました。なんとか皆さんとお会いできてバスで移動。10月の平日山行「北八ヶ岳」で一緒したメンバーさんもいらっしやっただけで安心でした。そして「一本木バス停」の登山口よりスタート。この日のお天気は雲一つ無い晴天で気分は最高!

ゆっくり、のんびりペースで景色を楽しみながら進みました。山には、人は少なかったですね。途中少し息が上がる登りもありましたが、富士山と紅葉の景色には、みんなで「おお～」と声をあげて感動の連続。もうずっと写真を撮り続けてしまうほどでした。そして山頂でのお昼休憩は目の前に迫る富士山を眺めながら至福の時を過ごしました。あ～幸せ♡

下山はこれまた景色の素晴らしい三湖台から紅葉台へ。時間が予定より押してしまいましたが河口湖駅行き最終バスに無事に乗ることができました。皆さん無事に下山でき、今回の山行はとに

かく富士山を堪能できたのでとても良かったです。ステキな企画をありがとうございました。

(参加者：浅田、吉田寛治、小島、清登、野口、米山、宮崎則子、足立原、吉田湖恵、高橋)



ドーンと富士山



みんなで、おぉー

1 2 月 風のみちハイキングと「鮎づくし」忘年会

野口勝志 記

風のみちという一風変わったルートをとった。

道路沿いの谷すじの小径をたどり、徐々に高度をかせぐ。日本北限というみかん山でみかん園のおかみさんからお接待を受けた。休憩所から中間平（ちゅうげんだいら）までは程よい登行で釜伏峠からの道路に合流し、鉢形城址までは長く続く舗装道路だった。

第 2 章は本番の料理旅館「京亭」。荒川の河岸段丘左岸に設けられた昭和 7 年創業のたたずまい。眼前には荒川の流れると、右岸は秀吉に滅ぼされた北条氏の鉢形城の要害が借景となっている。貸し切り状態でさっそく「鮎づくし」をいただく。80 歳になる女将の昔ばなしとホスピタリティよろしく酒肴がふるまわれる。うるか、鮎煮浸し、塩焼などなど、締めは鮎ご飯でこれも絶品だった。もう一度、鮎の季節にきたいものだ。



(参加者：清登、吉田寛治、野口、米山、小島、高橋)

1 月 阿須丘陵ハイキングと「吉田寛治さん米寿」のお祝い

吉田寛治 記

今回高橋さんのご発案により小生の米寿祝いと誕生日祝いを一緒に行って頂きました。その日は、たまたま東さんのカフェ Patina の都合で正に誕生日 1 月 24 日に重なりました。

16 名の大勢の皆さんに参加して頂き感謝の限りです。前半のハイキング阿須丘陵七国コースは初めてでしたが旧上州道という立派な古道に逢ったのは発見でした。後半の長いアスファルト道路には疲れしました。

カフェでは東さんに大腕を振るって頂き料理やケーキを美味しく腹いっぱい頂きました。特に小生のために 88 歳のバースデーケーキを作って頂きローソクを吹き消しました。



七国山頂ピークも踏んだ



東さん カフェ Patina で米寿のお祝い

何か一言と言われ、小生のつまらない今までのプライバシーの成り行きのお話をしました。墨田区は在原業平の所縁のスカイツリーのある業平で生まれ、小学校3年での集団疎開、海外を目指しての外務省の実習生制度（現在の海外協力青年隊の前身）でボリビアの鉱山で働いたこと、その間、東京外国語大学のボリビア・アンデス遠征登山隊に参加してアンデスに登ったこと、帰国してトラック自動車メーカーの海外技術指導員としての延べ10年の海外生活の話、現在の健康維持法など、時には恥さらし的な、時には自慢話的な皆さんにとってはつまらない話をご清聴頂きました。なんの取柄もない小生を取り上げて頂き本当に有難うございました。

（参加者：吉田寛治、東、清登、野口、小島、米山、立原、浅田、町田、菊池、轟、宮崎則子、足立原、渡邊、横山、中村、高橋）

自然保護委員会【ニホンジカ食害の実態調査について(その1)】
一秩父 父不見(行々)山周辺一 自然保護委員 鴨志田隼司

【はじめに】

埼玉支部自然保護委員会では、これまで第一次から第四次まで野生動物による被害の調査を実施した。第五次では、埼玉県の管理ユニットに属する小鹿野町北西部の群馬県境でシカ食害の実態調査目的で、第一次調査の秩父山系の二子山周辺に続き、小鹿野町父不見山周辺を対象とした。この地域は、埼玉県環境部の調査によると推定生息密度は高く、県境における地域別捕獲頭数の多い地域である。

委員会による調査は2016年09月24・25日に行った。初日は秩父地方白井差に住む山人から両神山を中心とした奥秩父周辺におけるシカ食害の実情を聴取し、翌日に現地調査を実施した（山人の炉端話の記録は後日報告する）。

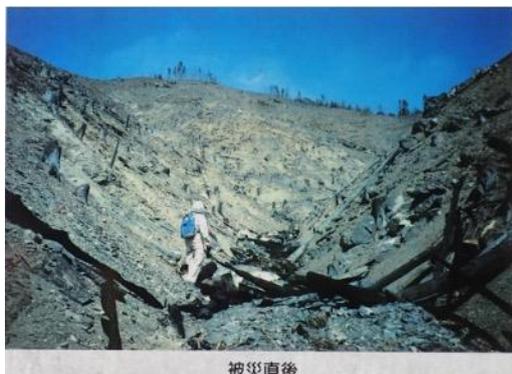
【調査地と方法の概要】

調査地は秩父郡小鹿野町長久保川上流の長久保ノ頭と杉の峠に囲まれた、標高およそ800-1050mで、尾根と沢を含む北から東に開け、右岸が緩斜面で左岸は急斜面の地形である。調査範囲はシカ侵入防護柵が源流域を囲む造林区班とした。調査方法は尾根筋を辿り山頂を経て、尾根筋を下る廻りコースでの調査観察とした。



調査地区の長久保沢源頭斜面は2000年の山火事で植生が頂上と尾根筋を残して焼失したが、調査時点では植林が済んでいた。

調査範囲の主な植生は沢部の緩斜面にスギの造成、尾根部は低木層の落葉広葉



樹である。生態系痕跡はシカのフン塊と姿の目視および木本・草木科への食害を主とした。造林地においては植林の幼樹芽への食害、山頂平坦部および尾根部では常緑広葉樹林の下層植生への食害、林床植生への食害、特に嗜好種のテイカカズラ、アオキ、カクレミノ、ヤブコウジ、アカガシ、アオキの食害などを目視観察した。食害以外には、特にリョウブ科・ウコギ科の樹木の表皮にシカによる角研ぎと樹皮剥ぎ被害にも注目した。

【調査の詳細】

秩父小鹿野町の最北部に属する、父不見山東西の山稜には上州富岡へ至る峠道が数多く拓かれている。ことに吉田川上流の藤倉地区は集落も多く、それだけ山間部での焼畑（サシ：切替畑）が営まれていたと推察できる。

シカに代表される草食性の強い野生動物は焼畑耕作サイクルの端境期に生ずる草原状のエサ場（休耕原野を“そおり・そり”と呼ぶことがある）をことに好む傾向がある。

『新編武蔵國風土記稿』の秩父郡之二十中津川村の記事中において「・・・、焼畑の場所へ庭を結び、季春より初冬に至るまでは、夫妻子母代るがはるここに移住して、平道又は一里も二里も隔りたる山の中腹、或は谷間に居れり、禾熟の時に至りては昼は猿を防ぎ夜は鹿を逐ひ、夫妻みな処を異にし、あなたこなたと山を踰へ谷を隔てて、仮小屋に通ひて夜な夜な板木を打ち、或は声をあげ、猪鹿を防ごと、疾風雷雨にも息ふことあたはず、其難知んぬべし・・・」と江戸時代後期においても、猪鹿の被害は山間部での耕作者にとって頭の痛い問題であった。

調査当日は交通手段の事情から乗用車4台にて現地登山口へ向かった。父不見山を目指すのによく使われる登山口（坂丸峠）から下山口（杉の峠）へのコースは自動車利用では不便なため、杉の峠から父不見山・長久保のノ頭（大塚）を経て鐘撞峠へ降る計画をY委員が提案した。

杉ノ峠への登山路は数名で手分けして探したが、藪が深くて見つけられず、そこで、観察路に山火事後に設けられた植林用の作業道を辿ることにした。

作業道入口は長久保沢を渡った、林道西秩父線が大きくカーブする箇所、乗用車は5～6台ほど駐車できそうである。

山道は、長久保ノ頭南支尾根の山腹をぬうように長久保沢を眼下に見下ろすように付けられている。道幅は途中までは軽トラック程度が通行できるほどで、支尾



根を乗り越す箇所が削平されており、自動車を止めることができるほどの余裕がある。

山道はここから植林用の径となり南支尾根側を幾本かの作業径が走るようになる。草原状の斜面はスギが植林されており、振り返ると遙か彼方に横瀬二子山がみえ、武甲山は雲の中かくれていた。

我々はF委員のルート選択に従い、長久保ノ頭南支尾根上部をめざして調査を開始した。



その途中で、尾根筋と沢筋の境に張られたシカ防護ネットに角を絡ませた若ジカを発見した。年齢は一叉の角を持つ一歳程度で、胴体に白い斑点がのこる若ジカでした。シカ防護ネットは長久保川の流域を囲むように張られているが、植林二年目の幼樹の芽を守るために設けられたものと思える。



最後は長久保ノ頭南支尾根の標高 1050mあたりの防護ネットを潜って、長久保ノ頭(標高 1065m)への尾根道を辿った。長久保ノ頭には二等三角点「大塚」(1065.7m)の表示がある

山頂部は山火事の被害を逃れたように、雑木とスギの交じった林相で、山頂部周辺の雑木林でリョウブ科・ウコギ科の樹木の表皮が食べられていた。しかし広く認識されている、イネ科のササ・アズマササへの食痕は見られなかったが、地面を被覆する下層植生は一切見られず裸地に近い状態でした。

長久保ノ頭から 15 分程度の父不見山(1047m)は鬱蒼とした湿り気が多い山頂で、林床にはシカが好む植物はほとんど生育していない状態である。充分に手入れのされていない、スギ植林地帯ほど始末の悪い山はない。上州側の植林帯も下草も生えず、薄暗い湿り気が多い山肌が露出していた。1996年に撮影された遠山氏の映像によると、父不見山頂上部の伐採が進んでおり、伐採後の状況を考えると、草原状の茅場での草食動物による食害が考えられる。

昼食後、緩やかに続く国境線に沿って、杉ノ峠に至りました。峠へ続く国境稜線上のナツツバキ科の木肌が鹿の食害にあったように剥がされていた。

シカの食痕は余り目立ちませんでしたが、クマによる山栗の食べ散らかしは至る所で見かけました。また、立ち枯れの樹木に巣くったシロアリを食べるために、クマが引っ掻いた痕が目立ちました。



杉ノ峠は国境尾根のヒラの端に、スギとヒノキに囲まれた祠に見守られるように佇んでいた。祠は割石の積まれた台座の上に鎮座し、その前方に一对の御神灯が寄進されており、中には御札と馬蹄が納めてありました。

それ程遠くない昔に、小鹿野の街はずれから上州万場の街へ何を積んで通ったのでしょうか?養蚕の盛んな時代であれば、小鹿野の街で集荷した絹関係の荷を上州の富岡を目指して越えたと思わ

れます。杉ノ峠の周辺は山中のヒラなので、交易に関わる小屋などの存在が示唆されます。上州へ越えるだけの峠ならば、東へ 150m 程降った標高 880m の鞍部が適していると思えます。

杉ノ峠からの路はスギの植林地斜面をジグザグにくだるように付けられていた。道幅は比較的広く、荷駄を積んだ馬でも通えそうです。暫く降ると、杉林が途切れ前方の山脈が見渡せる箇所に行き会いました。向かい側の山腹は朝ほど辿った造林作業道のある斜面で、谷川を流れる瀬音が聞こえてきました。



ほどなく、脚下に白く輝く林道が見え、父不見沢側への降道が、小さな山の鼻を回り込むようになると、そこが杉ノ峠への登り口でした。山道は斜面にほんのお印程度に付けられた窪をまたぐようにして林道へ降りていた。

朝方あんなに探った登り口だが、よくよく観察すると、杉ノ峠・父不見山への道標が夏草に覆い被されて立っていた。



大塚側から見た父不見山山頂 右側方向が杉ノ峠方向 1996年頃

登山口は、国土地理院の二万五千分の一「万場」図幅によると、長久保林道が西秩父林道と林道西秩父線に分岐した前の沢の左岸に取り付くように表記されているが、実際には支尾根下部の窪左岸から取り付くように径は設けられてた。

古くは、秩父側の長久保から長久保川の右岸、花坂・寺平を通して、杉ノ峠に向かっていたのでしょう。したがって、林道の擁壁により旧道は削られてしまい、現況の山道と公図の違いが生じたものと思われる。



峠道を多用していた時代の路は溪谷沿いを避けて、尾根道に設けられるのが安全なルートのようなのです。溪谷や澤が氾濫し、山崩れ等で谷沿いの路が不通になると、人々の生活や暮らしを脅かすようになるのは最近の知見でもよくわかることです。古くは、谷奥に生活圏を構える人々は尾根道を通る脱出ルートを必ず備えていたものです。その事が我が国において多くの峠路を形作ってきた痕跡なのでしょう。

こうした意味からも、尾根沿いの山道の普請と整備は今後の気候変動を考えると、生活や暮らしに必要な社会インフラのひとつになるだろうと思われま。

「山岳」Vol. 111 へ皇太子時代の今上天皇陛下が寄稿された「歴史と信仰の山を訪ねて」の内容も「道」への限りない憧憬と歴史性を醸し出してくれております。

登山ルートだけではない「みち」を考えるのも我が国にとって重要な文化・歴史の一部なのだと考えさせられる山旅でした。

【結果の概要】

この植林地における杉幼樹芽への顕著な食害を探したが見当たらなかった。また山頂平坦部におけるササ属への食害も見当たらなかった。平坦部に散乱していたクリのイガはクマによる食痕と思われる、峠へ続く尾根周辺の雑木林でリョウブ科・ウコギ科の樹木の表皮にシカによる角研ぎと樹皮剥ぎ被害が見られた。

しかし広くシカ被害と認識されている、下層植生のイネ科ササ属への食痕は県境に僅かに認識される程度であった。

シカ被害等の明確な痕跡および野生動物を観察できるほどの成果が得られなかった調査であったが、防護ネットにツノを絡められた若ジカを発見したのと、シカのツノ研ぎ・皮剥ぎおよび白骨化した鹿の背骨を採集したことで、この調査山域での野生獣の存在を確認できたことが収穫である。

【今後の活動】

シカ捕獲頭数が急激に増加し始めたのが 1990 年代であるといわれている (2015 高槻)。田口による列島の狩猟史 (2000 田口) の暦年年代を旧石器時代まで押し広げると、後氷期最寒冷期以降、列島から大型獣が絶滅し、旧石器時代後期後葉の細石刃階段において狩猟対象は小型の鳥獣に変化した事が明らかにされている。当時の人々は海退した洪積世の台地上でシカ狩りをしていたようである。したがって、武蔵野台地上にシカの生息地が存在したわけである。この状況は沖積平野が形成された縄文時代後晩期まであまり変わらない景観のようであった。弥生時代中期中葉 (BC100 年) になると関東地方でも水稻栽培が開始され、開析谷 (溺れ谷) や平野に水田が開拓開墾され、中世古代を通じてこの傾向は変わらなかった。このためシカは台地・丘陵部から山地 (森林) へとその生息地を移動せざるを得なくなっていた。この状況は江戸時代の寛永年間の大開発・干拓・開墾耕地の拡大時代に入るとさらに顕著になってきた。



高槻 (2015 高槻) は自著の最後で「現在、日本の森林はシカによって深刻な状況になりつつある。それは、おもに農山村に人が少なくなるという社会の変化が起きたようである」と述べ、シカ被害の捉え方として、日本列島全体を齊一的に概観するのではなく、地域特性を考慮した対策が必要であると述べている。

今後の取り組みとして、シカの生息地に合わせた取り組み方が考えられる。ニホンジカの生息域と被害地域を特定し、シカの被害による、高山帯における高山植物への被害、亜高山帯における希少植物や土壌保護植生への被害、奥山における植林・土砂流出への被害、里山における植林・森林被害、里地における森林被害等が考えられる。

「温暖化が進めば将来起こり得る」と伝えたことが、すでに世界各地で頻発し、危惧した環境への影響は現実となり、「地球沸騰」と言われる時代が到来した。野生動物の棲息・活動範囲が奥高里低から奥低里高に 1960 年代から始まり、1990 年代になると更に顕著になったという報告がある。

【参考文献】

- ・金丸一豊 2011~2014 『埼玉県のニホンジカの被害調査について』
- ・平成 28 年度埼玉県指定管理鳥獣捕獲等事業実施計画 (ニホンジカ)

- ・田口洋美 2000 「列島開拓と狩猟のあゆみ」『東北学』 3、東北文化研究センター
- ・高槻成紀 2015 『シカ問題を考えるーバランスを崩した自然の行方ー』 山と溪谷社
- ・飯野頼治 1990 『山村と峠道一山ぐに・秩父を巡るー<シリーズ山と民俗 1 3 >』 産学社エンタプライズ出版部
- ・小泉 尚夫 2017 「父不見山の「三角天」考」『奥武蔵』 413 号
- ・ハイキング編集部 1940 「長久保山と父不見山」『ハイキング』 92 号
- ・蒲谷 肇 1988 「東京大学千葉演習林荒檜沢における常緑広葉樹林の下層植生の変化とニホンジカの食害による影響」『東大農学部演習林報告』、78、67-82

(文責日本山岳会 埼玉支部元自然保護委員会委員)

なお掲載写真の一部は元会員 故・遠山元信氏および元会員 朝日 守氏から寄贈されました。紙上にて御礼申し上げる次第です。

第 5 期 (2023 年度) 埼玉やま塾終了のご報告

埼玉やま塾担当 長谷部康子

2023 年 6 月に開始した第 5 期埼玉やま塾 (全 8 回) が 11 月 4 日に無事終了いたしました。

机上講習は今年も立地の良い浦和コミュニティセンターを利用させていただきました。

実技講習は例年、梅雨時期に行われる第 1 回実技講習 (大高取山)、第 2 回実技講習 (武甲山) で雨の講習となるのですが、今回は第 3 回 (伊豆が岳) までお天気に恵まれました。登山の楽しみである山頂からの景色を堪能することはできましたが、蒸し暑く熱中症対策が大変であったとの報告を受けております。



第 1 回実技 (大高取山)



第 2 回実技 (武甲山)



雲取山荘での懇親

雨が降ったのは第4回実技講習(雲取山)の2日目のみでした。主に日帰り登山されている方は雨の中を歩く経験があまりないと思うので、主催者側としては講習という安全が確保された中で「雨の山歩き」を経験していただくことができ良かったと思います。



第3回実技(伊豆ヶ岳)

受講生は皆さん気さくでお話しやすい方ばかりで、平川講師にしっかりと登山の基本を教えていただきつつ、実技講習内ではおしゃべりもして楽しい講習となりました。外部参加者9名のうち4名(12月9日時点)が埼玉支部に入会し、私たちの新しい仲間となりました。

埼玉やま塾の卒業生であるサポートスタッフたちは、各種手配・登山道の状況確認など、講習がトラブルなく行えるように様々な役割を分担して行いました。仕事やプライベートがある中、皆さん協力的で大変ありがたく、受講生のアンケートではとても良い評価をいただきました。

関係者の皆さま、本当にありがとうございました。

2024年2月1日から第6期の募集が始まっております。ご興味のある方は是非ご参加ください。



第4回実技(雲取山)

2024年度
埼玉やま塾
第6期生募集!

主催 公益社団法人 日本山岳会埼玉支部

安全で楽しい登山をするために、登山の基礎をプロが教えます。自立した登山者を目指す講座です。

武甲山 参加者の声
個人で山に行っているとは正しいうちの経験が判断できない。ガイド協会会長の現役講師からの学びは他では得られず、大変貴重な学びでした。
(第3期卒業生 66歳 男性)

大高取山

山小屋での経験や交流も、楽しく、かになりました。スタッフの皆さんのサポートにもとても感謝です。
(第5期卒業生 52歳 女性)

雲取山

山と交流の幅を更に広げたく、卒業後は、日本山岳会埼玉支部に入会しました。白人身体経験しながら、自分にも何か出来る事があれば、お手伝いしたいです。
(第4期卒業生 38歳 女性)

伊豆ヶ岳

【講師紹介】平川 陽一郎 (公益社団法人日本山岳会 埼玉支部 埼玉やま塾事務局)
公益社団法人 日本山岳会 常務理事
(公)日本山岳ガイド協会正会員団体 マウンテンガイド協会会長

◆お申し込み、お問合せ: 公益社団法人日本山岳会 埼玉支部 埼玉やま塾事務局
E-mail: jac_saitama2021@yahoo.co.jp (※4文字目はアンダースコアです)
①名前 ②生年月日 ③郵便番号、住所 ④電話番号 ⑤埼玉やま塾を何で知ったのか?
を明記し、上記アドレスへお申し込みください。
◆参加費: 全8回で20,000円(机上課料4回、登山実技4回)
※現地までの交通費、宿泊費、食費等は別途 各自支払い
◆締め切り: 2024年4月30日(土) 但し定員15名程度になり次第締め切りです。

机上講習 浦和コミュニティセンター(浦和駅西口徒歩1分)	
第1回	5月18日(土) ※19:00~21:00 テーマ: 日本山岳会とは、登山の基本、平地と異なる山の対応方法、登山のオキズ ① 日本山岳会と日本山岳会埼玉支部の紹介 ② 登山の基本の歩き方と登山靴の使い方 ③ 6月1日実技「大高取山」のウェアと装備品の紹介
第2回	6月29日(土) ※19:00~21:00 テーマ: 登山装備解説、気象の基本 ① 登山装備の選び方と使い方 ② 登山時に身体を守るレイアウト、必需品とある便利なアイテム ③ 7月6日実技「武甲山」のウェアと装備品の紹介
第3回	8月24日(土) ※19:00~21:00 テーマ: 計画立案・計画書作成と提出・事故に遭わない鉄道の基本 ①「無理のない計画、正しい計画の立て方」 ② 鉄道の気象と事故の防止 ③ 安全対策、保険とココロ ④ 9月7日実技「伊豆ヶ岳」、9月28~29日実技「雲取山」ウェアと装備品の紹介
第4回	11月9日(土) ※19:00~21:00 テーマ: 遭難事故の対応とセルフレスキュー、事故を防ぐための対策 ①「事故対応」事故事例、手当と救助要請の時期と必要な内容 ②「事故原因の調査と防止対策」事故を起こさない対策と対応

※注記: 講習の時間は会場での都合上、変更になる場合があります。(講習の3ヶ月前頃)

登山実技講習	
第1回	6月1日(土) 大高取山 テーマ: 登山前の準備と歩き方と休み方、鉄道の基礎 ① 靴の結び方、ザックやポールなど用具の使い方 ② 歩き方、休み方、登山道のすれ違い、ザックの置き方、それらの理由 9:00緑生駅集合(東武緑生線) 15:00緑生駅解散
第2回	7月6日(土) 武甲山 テーマ: 曇りと雨の行動対策、用具の使い方・地形の読み方 ① 1回目の見直し、用具の使い方と鉄道の基本 ② 給水、食事のとり方、休憩の場所 ③ 曇りと雨の行動対策 8:15根葉駅集合(西武秩父線)16:00浦山口駅解散(秩父鉄道)
第3回	9月7日(土) 伊豆ヶ岳 テーマ: ロングコースの歩き方 ① 1~2回目の見直し ② 用具の使い方と鉄道の基本 ③ ロングコースの対応 8:30正丸駅集合(西武秩父線)16:00喜野駅解散(西武秩父線)
第4回	9月28日(土) ~29日(日) 雲取山 テーマ: ロングコースの歩き方、寒暖差の対策、山小屋泊の注意 ① 1~3回目の見直し、用具の使い方と鉄道の基本 ② ロングコースの歩き方 ③ 寒暖差の対策、山小屋泊の注意 28日 8:00西武秩父駅集合(西武秩父線) 29日 14:30東武緑生駅解散(JR有馬線)

※机上実技共に日本山岳会埼玉支部会員様数名がサポートいたします

※講習内容は、感染拡大の状況によって変更になる場合もあります。
※実技講習の場所と内容は、気象や登山道の状況によって変更となる場合もあります。
※机上講習は全て録音されますので、出席できなかった場合、受講生は後からYouTubeで見返すことができます。



日本山岳会 埼玉支部HP

山岳古道プロジェクト講演会

山岳古道調査PJ 副実行委員長 松本敏夫

【演題】「日本九峰修行日記で辿る近世関東の霊山ーとある修験者のまなざしー」報告

1. 日時：2024年2月18日(日) 10:00 ～ 12:00
2. 場所：埼玉会館 7A 会議室
3. 講師：埼玉県立嵐山史跡の博物館 主任学芸員 関口 真規子 氏



【講演概要】

日本山岳会創立 120 周年記念事業・全国古道調査関連講演会「日本九峰修行日記で辿る近世関東の霊山ーとある修験者のまなざしー」が、令和 6 年 2 月 18 日(日)、10:00～12:00、埼玉会館・7A 会議室で、埼玉支部・山岳古道調査プロジェクト主催により開催された。

講師は埼玉県立嵐山史跡の博物館・主任学芸員の関口真規子氏に依頼した。

講演会には、日本山岳会及び埼玉支部会員(22名)を含め 32 名、講師及び一般登山愛好家並びに修験サポーターを含め 48 名、参加者総数は 80 名であった。前回までの講演会と変わり、新型コロナウイルス感染症の脅威から解放されたことより、募集人数を 100 名とし開催したものである。

講演内容は、日向国佐土原藩(現在の宮崎県)の代表的な当山派修験である泉光院(野田成亮)が従者の斎藤平四郎と共に、文化 9 年(1812)～文政元年(1818)の 6 年 2 ヶ月に亘り、薩摩国から出羽国まで回国(旅)した記録(日本九峰修行日記)を基に講演されたものである。

始めに、修験の行動や目的などの基本的な説明があり、当山派修験の醍醐寺三宝院又は本山派修験の聖護院などの 2 大教派の解説があった。日本九峰に関しては、英彦山、石鎚山、箕面山、金剛山、大峰山、熊野山、富士山、羽黒山、湯殿山の古くからの修験道場としているが、泉光院の個人的な選定であると報告された。

関東周辺の訪問地域では、武蔵、上野、下野、常陸、下総、上総、安房、相模の各国に関しては詳細に解説された。特に武蔵国では、府中、青山鳳閣寺、亀戸の梅屋敷などを見物し、草加から慈恩寺(坂東札所 12 番)、氷川神社(武蔵国一ノ宮)、吉見観音安楽寺(坂東 11 番)、岩殿山(坂東 10 番)、慈光寺(坂東 9 番)から、大野峠を越えて秩父札所四万部寺(秩父札所 1 番)に進み、大日向山大陽寺、三峯山(表参道から登拝)、水潜寺(秩父 34 番)を経て上野国・鬼石へと旅をしている。

全体的に坂東札所及び秩父札所の記録は簡潔に記されているが、大陽寺では鬚僧大師の開基を記し、三峯山では御殿西向大社也、ご眷属の山犬を借りるのに初尾金百円也、当時参詣者が多いことなど具体的な記述があると報告された。



關八州(坂東八ヶ国):注1



現在の関東(都県):注2

また、食事に地域性があること、「枅目に定りなし、勝手次第に拵へる事・・・一升算用、甚だむつかし」など、枅目が全国統一されていない状況など、興味深い地域の現状が報告された。

回国の途中で、泉光院の出身地の佐土原の人たちに出会ったり、顔見知りの回国巡礼者に会ったり、旅行が不自由であったと推測される江戸時代でも、多くの一般人が旅をしていて、回国の面白さを記していることに驚かされる。

最後に、旅の報告書を本山で回国調査の依頼元である醍醐寺三宝院に提出し、故郷の佐土原に帰国した際には、地元の人たちから大歓迎された様子が記されていることなど、長期にわたる回国の困難さが感じられる。

講演終了が 12 時を過ぎてしまい、質疑応答の時間が取れなかったのは残念であった。また時間の余裕があれば、もう少し回国の楽しい話を聞きたいところであった。非常に分かりやすい講演で、内容が参加者によく理解できたものと思われま

す。講演で、内容が参加者によく理解できたものと思われま



埼玉会館における講演会風景

出典：注1(matome.naver.jp) 注2(shinwa-transport.co.jp)

スキー同好会 第 5 回日帰りスキー会報告

山行委員 古川史典

- 1, 日 程 : 令和 6 年 (2024) 2 月 18 日 (日)
- 2, 場 所 : ホワイトワールド尾瀬岩鞍 (沼田・水上) 旧尾瀬岩鞍スキー場
- 3, 参加者 : 渡邊、古川、長谷部、町田、萩原、坂倉、天池、平本 (真) (恵) 計 9 名
- 4, 活動 :

8 時	関越高速赤城高原 SA 集合
10 時	滑走準備後自由滑走
12 時	昼食 (うめでん)
13 時	自由滑走、坂倉スキー学校に入校
16 時	自由滑走終了し「望郷の湯」で入浴後解散

5, 【コメント】

昨年と同じホワイトワールド尾瀬岩鞍にて開催しました。天気は昨年同様微風快晴のスキー日和でした。新たに参加した 6 名の方、皆さんのスキー滑走の足並みがそろっていてすべてのコースを滑り元気にケガもなく終わりました。帰路は、温泉に入浴し満足の日帰りスキー会でした。来年も色々と趣向を凝らし開催したいと思いますので、JAC 埼玉支部会員の方奮ってご参加ください。



「山の本棚」シリーズ⑨

会員 小原茂延

「山の本棚」 シリーズ⑨

小原茂延

■ 山の詩歌 詩・俳句



「友へ贈る 山の詩集」 串田孫一・鳥見迅彦編著

教養文庫 1967 初版 カバー写真 三宅修

マナスル初登頂(1956)に沸いた登山ブームの頃、山の書・雑誌と共に山の詩は登山者に夢を運んでくれた。

本書のカバー袖に「日本は山に恵まれた国である。

山への愛は、人々の心の中に深く蓄えられ、多くの詩人たちはそれをうたった。」と添えられている。

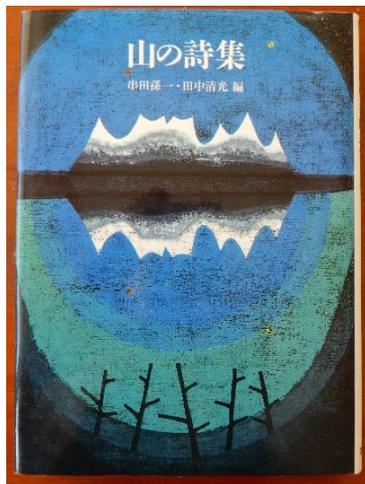
印象に残る詩を1篇

「山」 堀口大学 —長谷川巳之吉へ—

ここにきて 友よ 見よ

見て 思へ 山は地の 天上めざす あこがれよ

この詩集は、山行時に携えて山路で、山小屋で繙き、下山して山行の余韻を愉しんだ。



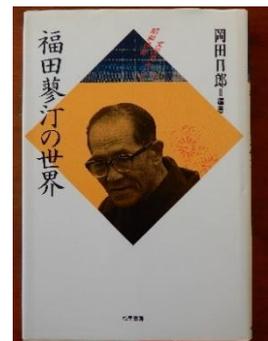
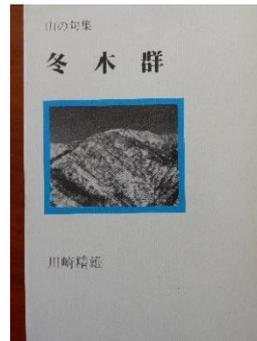
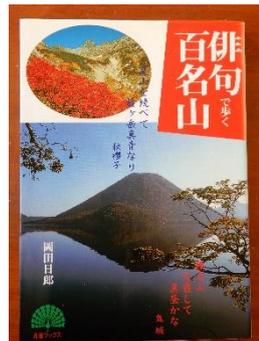
「山の詩集」 串田孫一・田中清光編

筑摩書房 1991 初版 カバー・表紙・扉等は大谷一良

編者の一人である串田孫一は序で書いている。「…その頃家にいて山の本を読む時間が多くなっていたが、誰にすすめられたのでもなく、特に気に入った一行二行を帳面に書き抜いて、沁々と味わっていた。…」

みやまうすゆきそう 伊藤秀五郎(いとう ひでごろう)

古里は 氷河に削られた山頂のカール 名付け親は風だ
天の影 地の唸り カールを取り囲む垂直の絶壁 そこで
はときに質量は消え 時間が停止する そのときだった
彼女が寂寥の意味を覚ったのは



「山の本棚シリーズ」を振り返って

小原 茂延 記

「山の本棚シリーズ」を支部報に掲載させて頂いたのは令和 3 年 3 月のことであり、早くも 3 年経過しましたが、ご紹介できたのは 8 名の著者による 30 冊に満たない分量です。



小原茂延会員

内容としては、いわゆる近代登山の黎明期から近代アルピニズムの先駆け時代の登山家の紀行文、随想といった類のものでした。時代を経て名著と言われる山岳書に接することは実際の登山と相俟って、山岳愛好家にとって得るところは大きく、同好の士と語らう際にも共感できる源泉ともなります。

今回の紹介方式では 5~10 年かけても山岳書 100 冊にも満たない訳で、長期の連載等考慮して今年度末で一区切りとし、**未だ紹介できなかったお薦めの本**をリストアップします。近藤信行の「日本の山の名著」、雁部貞夫の「岳書縦走」その他を参考としています。

書名	著者	書名	著者・訳者
尾瀬と鬼怒沼	武田 久吉	雪山・藪山	川崎精雄
山溪記	冠 松次郎	新編 山靴の音	芳野 満彦
スイス日記	辻村 伊助	花の百名山(新とも)	田中澄江
アルプス記	松方 三郎	エベレストママさん	田部井 淳子
わが登高行(上下)	三田 幸夫	青春を山に賭けて	植村 直己
山一研究と随想	大島 亮吉	日本登山史	山崎 安治
たった一人の山	浦松 佐美太郎	近代日本登山史	安川 茂雄
単独行	加藤 文太郎	小島烏水-山の風流使者伝	近藤信行
山岳省察	今西 錦司	邂逅の山	手塚 宗求
奥秩父 正統	原 全教	山の目玉	畦地 梅太郎
原野から見た山	坂本 直行	樹林の山旅	森本 次男
山へわが登高記	吉沢 一郎	アルプス登攀記	E・ウィンパー
北の山	伊藤 秀五郎	処女峰アンナプルナ	M. エルゾーグ
山に忘れたパイプ	藤島 敏男	星と嵐	G・レビューファ
北八ッ彷徨	山口 耀久	ナンガ・パルバート単独行	R・メスナー

令和 5 年の夏に本屋の山岳書コーナーを見ていたところ、「山の本棚」が目についた。エッ！と思って、手に取って見れば池内 紀の著である。「山と溪谷」誌の 2007. 1~2019. 10 迄連載した「山の本棚」を単行本化したものという。その頃連載を見た記憶が薄々あったものの、内容が山とかけ離れたものが多く(153 篇中、山という字のタイトルは 37 篇)、また定期購読していなかったので気付かなかった。現在一篇一篇味わっているところです。

~小原会員、長期に亘り「山の本棚」連載の執筆、ありがとうございました~ (編集 記)

「ペンリレー」第 5 回 「雑感」

会員 清登緑郎

私の尊敬する岳友の一人である、町田美春さんからのご指名で、以下駄文を綴ります。内容は、最近思ったことを書き連ねたものです。

<笠ヶ岳のこと>

昨年、笠ヶ岳に登りました。経年劣化とここ数年の病気による、体力の減衰は如何ともしがたく、隊の皆さんに迷惑を掛けてしまいました。笠ヶ岳登山は、3回目でしたが、笠ヶ岳山荘（一回目の時は避難小屋でした）までの長いアップダウンの道を飛ぶが如く、駆け上がった？ものでしたが、今回はゼーゼー、ヒーヒーの連続息切れ、休み休みの登山となりました。ただ、笠ヶ岳の山頂や頂上稜線からの展望は見事で、播隆上人が槍ヶ岳開山の決意をしたという、槍ヶ岳から穂高にかけてのシルエットは見事で、改めて感動しました。更に圧巻は、杓子平からの、笠ヶ岳の雄姿でした。雲一つない青空に、大きく堂々と聳え立つ笠ヶ岳の姿は、最高でした。北アルプスの眺望の中でも随一だと思います。これが見納めだと思うと猶更でした。

<栗きんとん>

笠ヶ岳に登頂した時、山頂でお茶を点っている若い女性がいました。私も、ご相伴に預かり、一服頂きました。その時、その女性が持参していたお茶請けは、「栗きんとん」でした。栗は、私の大好物です。とりわけ、和三盆と栗の実だけの栗きんとんは、栗の味が生きていて、絶品です。9月から12月までの季節限定で東京ではなかなか入手困難です。中津川の「川上屋」、「すや」が有名ですが、女性の栗きんとんは、岐阜県御嵩の「みどり屋」のものでした。朝から行列ができ、すぐ売り切れの栗きんとんです。一度食べてみたいものです。また、Patina(会員・東さんのお店)で頂く北海道の栗で作ったケーキも秀逸です。一度召し上がってください。

<メメント モリ>

「メメント モリ カルペ ディエム」という言葉があります。ラテン語です。日本語では、いろいろな訳し方があるかと思いますが、私なりに意識すれば、「人間はいつかは必ず死ぬ、その死を忘れるな、そして今を生きよ、この瞬間を楽しめ」ぐらいでしょうか。最近、この言葉と倒木更新という言葉に、何か惹かれるものがあります。年を取ったせいでしょうか。

<好きな詩>

山なみ遠に 春はきて
こぶしの花は 天上に
雲は かなたにかへれども
かへるべしらに 越ゆる路

三好達治です。皆さん、もうすぐ、春です。

次回の「ペンリレー」執筆を、萩原みかさんをお願いします。

新入会員 自己紹介

事務局長 林 信行

《市村裕子 会員番号 17119》

2023 年 12 月から会員となりました市村と申します。「富士山、一度は登ってみたいな」と思っていたものの行動に移すことは無く月日は流れ…このままだと登れない歳になるかも、とツアー登山に参加し昨年 8 月に頂上でご来光を見ることができました。運動能力低めなので燃え尽きるかと思いきやもっと山に行きたくなり、今は毎週ペースになっています(笑)。どうぞよろしくお願い致します。

《齋藤哲也 会員番号 17918》

1963 年、埼玉県生まれ。大学時代にワンダーフォーゲル部に所属し、キスリングを背負い、国内各地で登山に励む。卒業後、88 年キナバル山、89 年キリマンジャロ登頂。89 年以降長期に独立峰以外の山行を休止。還暦を前にした 2023 年 5 月、学び直しを目的に「埼玉やま塾」に参加。7 月、同塾での学びをベースにルート 3776 から富士山越えという 4 日間の山旅を終え、ようやく山に戻ってきたと実感。国内で最も好きな山は、快晴の下、黄色の絨毯に聳える鹿児島県開聞岳。今夏、梅海新道から北アの縦走を計画中。

《芹沢絵美子 会員番号 A0581》

山に行き始めてから 1 年程でして、単独行動の危険性を感じつつも一緒に行ける仲間もいなかったもので、せめて知識だけでもと、聞き覚えのあった日本山岳会のホームページでやま塾を知り、参加させて頂いたのをきっかけに入会に至りました。30 歳まで趣味でサーフィンをしており、山とは無縁でしたが、三峯神社・奥宮のある妙法ヶ岳への参拝をきっかけに山にのめりこんでしまいました。もう若くはないので、後何年登る事ができるのだろうかと思いつつも、諸先輩方の元気に活動している姿を拝見していると、とても励みになります。憧れの山などがいっぱいあるので、無駄に付いてしまった脂肪を筋肉に変えて頑張っていこうと思います。

《国崎 智 会員番号 A0583》

定年退職を経て比較的に時間的に自由ができ、これからの人生を考えた時に、体力の維持と今までやりたかった事をやってみたいとの欲求が抑えられず、比較的近くに美しい山々が多い日本に生まれながら、富士山以外にほとんど山に登った事が無い自分に気づき、埼玉支部の「やま塾」で一から基礎を学んだ事を実践に活かしながら、皆様と山行を楽しんで行きたいと考えています。幸いな事に「やま塾」で気の合う同じ年代の方々とお会いする事ができたので、体力的にも日程的にも余裕のある山行を選んでご一緒させて頂きたいと思っています。冥土の土産に「穂高涸沢に登ってヒュッテの展望テラスで満天の星を眺める」事を目標にしていますので、企画・計画されている方がいらっしゃったら是非、参加させて頂ければ嬉しいです。宜しくお願い致します。

《水野千秋 会員番号 A0584》

幼い頃体の弱かった私の為といい、山好きの父に半強制的に毎月山登りに連れて行かれました。そのおかげか中学生の頃にはすっかり丈夫な体になっていました。50 歳過ぎて恩師から山登りに誘っていただいた時に、初めて山登りが楽しいと感じました。急登を息を吐き吐き登り切り、頂上で絶景の景色を眺める喜びや達成感を味わい、ハマってしまいました。職場や同好会の仲間と定期的にハイキングや登山に行く中で、山登りの基本について学ぶ必要性を感じやま塾に入会しました。講義で学び、実技山行を経ましたが、消化しきれないことが沢山あります。今後山岳会の講演会や山行に参加し、学びながら山登りを安全に末永く楽しんでいきたいと思っております。皆様、どうぞよろしくお願ひいたします。

《北條健市 会員番号 A0585》

皆様、初めまして、この度入会させていただきました、北條です。高尾山から始まった登山歴は、まだ 5 年くらいです。これまで、ひたすら足元を見ながら、黙々とソロ登山をしてきましたが、色々な人生経験や登山経験のある方々と、情報交換をしながらゆるりと登山をするのも楽しいかと思ひ入会を決意しました。去年は、一気に、百名山のベスト 5 を登頂しました。それでもまだまだ、未踏の山はあります。一步ずつ一步ずつが自分の信条で、「かたつむり登らば登れ富士の山」のごとく山行を楽しみたいと思ひます。去年の夏に、一念発起して大型自動二輪の免許を取得し、バイクと登山をこよなく愛してきています。皆様、どうぞよろしくお願ひいたします。

《天池稚力 会員番号 A0586》

昨年第 5 期やま塾から初心者として登山を少しずつ楽しみ始めました天池と申します。以前はハイキング程度を会社の同僚、テニス仲間とたしなむ程度でしたが、第 5 期でせつかく知り合った同期、サポートスタッフの方々を中心に、より山を楽しみたい、知り合いの輪を拡げたいと思ひ、埼玉支部に入会しました。現在の登山技術は未熟であり、体力もありませんが、将来的に他の方が企画した山行について行くだけでなく、自力で様々な山にチャレンジ、経験をシェアできればと考えておりますので、宜しくお願ひ致します。

事務局からのお知らせ

事務局長 林 信行

埼玉支部会員 在籍者数及び異動

2024 年 3 月 7 日現在

会員	123 名	準会員	26 名	計	149 名
----	-------	-----	------	---	-------

会 員			準 会 員		
17198	齋藤 哲也	11 月	A0581	芦沢 絵美子	11 月
17199	市村 裕子	11 月	A0583	国崎 智	12 月
			A0584	水野 千秋	12 月
			A0585	北條 健市	1 月
			A0586	天池 稚力	1 月

【物 故】

10134	中島 達哉	23. 7. 9	享年 62 歳
-------	-------	----------	---------

【支部 退会】

会 員			準 会 員		
12234	山下 順子	12 月	A0517	倉崎 知恵	東京・多摩支部 へ異動
13673	深井 幾蔵	12 月	A0466	石川 峰子	2 月
12478	渡邊 浩	3 月	A0392	三國 志保	2 月
6280	牧 繁緑	3 月	A0410	前川 麻志帆	3 月
14848	児嶋 和夫	3 月			
10252	森 章	3 月			

2024 年度支部通常総会の開催について（お知らせ）と懇親会のご案内

下記のとおり 2024 年度通常総会を開催致します。また終了後、懇親会を開催しますので多くの皆様ご参加ください。特に新入会員のかたは出来るだけご参加ください。

内容につきましては3月初旬に郵送した「総会の開催について（お知らせ）」を御覧ください。

● 2024 年度支部通常総会

1. 期日 2024 年 4 月 13 日（土） 14 時 00 分～15 時 30 分（13:30 より受付開始）

2. 場所 浦和「埼玉会館」 7A 会議室

〒さいたま市浦和区高砂 3 丁目 1 - 4 TEL 048-829-2471（代）

● 講演会（大山 光一 埼玉支部長） 15 時 30 分頃～16 時 30 分

「夢抱き 夢育み 夢実現」～人生はチャレンジ～

● 懇親会のご案内

1) 時 間 17 時 ～19 時 00 分

2) 場 所 埼玉会館 1F ビストロ やま TEL 048-711-4119

講演会のお知らせ

4 月 13 日(土) 総会終了後 15 時 30 分頃～16 時 30 分

大山 光一 埼玉支部長が熱く語る！

「夢抱き 夢育み 夢実現」～人生はチャレンジ～



7 大陸最高峰制覇

1973 年：北米大陸最高峰マッキンリー(6,194 メートル)登頂

2001 年：アフリカ大陸最高峰キリマンジャロ(5,895 メートル)登

2002 年：南米大陸最高峰 アコンカグア(6,959 メートル)登頂

2005 年：オーストラリア大陸最高峰コジウスコ(2,228 メートル)登頂

2005 年：ヨーロッパ大陸最高峰エルブルース(5,612 メートル)登

2006 年：南極大陸最高峰ビンソンマシフ(4,897 メートル)登頂

2007 年：アジア大陸最高峰チョモランマ(8,848 メートル)登頂

8,000 メートル峰登頂歴

2006 年：シシヤパンマ(8,012 メートル)登頂

2007 年：チョモランマ(8,848 メートル)登頂

2009 年：チョ・オユー(8,201 メートル)登頂

2011 年：マナスル(8,163 メートル)登頂

2012 年：エベレスト(8,848 メートル)登頂

【編集後記】

年明けに能登半島を襲った大地震の被害は甚大でその爪痕はまだ生々しく、2 か月が経った今も日々の暮らしを奪われてしまった人たちが不自由な生活を余儀なくされています。

こんなとき思い出すのは東日本大震災の時のことです。私が福島第一原発の近くの出身だと知らない人が「自分とこでなくて良かった」「放射能のゴミを他県に拡散しないでほしい」などと話しているのを身近で聞きとても悲しい思いをしました。それが本音だとしても口にすべきではないこともあると思います。口から出る心、それが言葉だといいます。日頃何気なく話す言葉にも気を付けたいものです。

間もなく芽吹きが春がやって来ます。善意のボランティア活動も始まりました。被災された方々のご無事と一日も早い復興を祈りたいと思います。(橋本)

公益社団法人日本山岳会 埼玉支部報 第 41 号 2024 年 3 月 18 日発行

発行者：公益社団法人日本山岳会 埼玉支部 支部長 大山光一

事務局：350-0201 埼玉県坂戸市赤尾 1910 林信行方

電話：080-2256-4829 Email: stm@jac.or.jp

埼玉支部ホームページ：https://jac1.or.jp/saitama/